

小豆・いちご・キャベツのオオタバコガ（新寄主）

令和6年8月中旬、訓子府町の北見農試内の小豆において、花や若莢を食害するタバコガ亜科の鱗翅目幼虫を確認した。本種は、花においては花卉を円形に切り取るように食害し、莢においては1～5mm程度の穴を開け、表面から円型すり鉢状に穿孔し、頭部を差し入れ子実を食害した。採集した幼虫は小豆の若莢のみで発育し、成虫が得られた。得られた成虫は体長20mm、開長40mm内外で、外部形態の特徴からオオタバコガ *Helicoverpa armigera* (Hübner) と同定された。

本種による小豆の花及び莢の食害は8月上旬から9月上旬にも認められたほか、8月中旬には後志管内の生産者ほ場および中央農試ほ場でも確認された。また、8月下旬には道央地域の施設栽培いちごで葉の食害、9月には中央農試のキャベツほ場でも葉の加害が確認された。

本種は令和6～7年にかけて、道内への飛来量が多かった。加えて夏季の気温が平年より高かったことがこれらの被害に関係したと推測される。キャベツが加害された際は、結球内部に穿孔加害するため結球期までの防除が重要である。

（北見農試・中央農試・後志農業改良普及センター）



左上下：オオタバコガ幼虫、右：オオタバコガ成虫

（左上：中央農試 武澤原図、左下：中央農試 小野寺原図、右：北見農試 下間原図）